研究主題：主体的、対話的で深い学びの実現を目指して（３年次）

～TANKYU～

谷地南部小学校
校内研究だより
２０２３．７．１４
№２４　文責　荒木秀

悔しかったら、自分の人生くらい、自分で責任を持ちなさい！その②

前号がちょっと尻切れトンボになってしまったので、続きを。別に愚痴を言いたくて、前号を書いたわけではありません。私が言いたかったのは、私たち教師は「自分で決められる大人」を育てていかなければいけないということです。教育基本法の第一条には、次のように書かれてあります。

> 教育は、人格の完成を目指し、平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質を備えた心身ともに健康な国民の育成を期して行われなければならない。　（教育基本法第一条）

「人格の完成」とは何を指すのか？「社会の形成者」って何？など、突き詰めれば深くなっていくのですが、その議論はまた今度。これを大前提に、校長先生が示す学校教育目標があります。

> 未来をひらき、しなやかに生きる力を育む教育

この子たちが「社会の形成者」となって迎えるころの「未来」って、どんな世界なのでしょう？１０年後くらいだから、今とそう変わらない「未来」？それとも、生成ＡＩなども誕生し日進月歩にテクノロジーが進化する昨今なので、とてつもなく進化した「未来」？

以前よりも、予想がしにくい時代になったことは、まちがいありませんよね。そんな中で、「しなやかに生きていける力」を育んでいかなければなりません。私はそのために「自分で決められること（自己決定）」が大切なのではないかと考えます。

何度も言いますが、誰もが確実な未来など想像できません。目の前の一つ一つの課題に対して、自己決定し、しなやかに乗り越えていくしかないのです。そのような機会を、普段の授業の中にも取り入れていきましょう。私たち教師が一方的に与えるのではなく、授業のねらいは示しながらも、どんな方法でそのねらいに迫るかは、子どもたちに「自己決定」させる。そんな授業にシフトチェンジしていきましょう。